



北海道北見柏陽高等学校同窓会
 かじわ会東京支部 2014 年度会報
 発行日 2014 年 8 月 31 日
 発行者 北海道北見柏陽高等学校同窓会 東京支部
 支部長 四十物治夫
 山梨市北 2184-4

新たな会場で和やかに

二〇一三年度総会・懇親会

盛大に開かれる

・2013年10月20日
 ・レストラン
 ベニーレベニーレ

会場を原宿に移しての総会には、会員 71 名と来賓 4 名が出席しました。校歌斉唱、四十物支部長、山本同窓会長の挨拶に続いて 2012 年度会計報告が行われ、満場一致で承認されました。

続いて開かれた懇親会では、乾杯の後、懇談に入り旧交を温めました。古賀恵美子さんの熱唱に続いての恒例

母校・北見柏陽高校を訪ねて

を

かしわ会東京支部長 四十物治夫

6 月 19 日に、柏陽高校を訪問しました。

この 4 月から赴任された塩見裕史校長の歓迎を受け、色々な話をさせていただきました。

昨年度から完全実施の単位制移行の諸問題や少子化に伴う人材不足解消のための P.R 活動等、新しい課題に積極的に取り組んでおられる様子をうかがい知ることができました。

最近の柏陽校生は礼儀正しいと聞いていましたが、廊下ですれ違う時には必ず立止って「こんにちは」と、全員が

の『お楽しみ抽選会』は大いに盛り上がり、スペシャル景品（カニ・ホタテ貝セット）は勝ち抜きジャンケンの勝者が獲得しました。

楽しい集まり、第三夜校歌で締めくくり、定刻を過ぎた頃お開きとなりました。

報告および承認事項

全員挨拶してくれました。我々の時代には想像すらできない光景です。現在の校舎になって四半世紀が経ち、部活動関連施設も時代とともに様変わりしていました。

一方で、短い訪問でしたが、栄えある北見柏陽高校の歴史と伝統が引継がれていることを実感できたことが大変嬉しかったことを付け加えておきます。

これも偏に、諸先輩方の輝かしい活躍とその時代時代の恩恵並びに P.T.A を始めとする学校関係者の皆様の弛まぬ努力と奮闘があったからと敬意を表する次第です。

北見柏陽高校は、将来に向け新しい一歩を踏み出しましたが、これも創立一

■会計報告

前期繰越金	191,909
収入の部	899,500
支出の部	881,891
次期繰越金	209,518

■役員

支部長	四十物治夫（15 期）
副支部長	古賀恵美子（21 期）
幹事長	國武悦子（16 期）
副幹事長	椎名孝典（18 期）
会計	小山茂（16 期）
監査	高橋洋司（14 期）
	水野真由美（15 期）

■懇親会実行委員

14 期	高橋 洋司
	木村不二雄
15 期	坂井 一彦
	曾我部正幸

世紀の中の節目の一つかも知れませんが、今後とも『誇れる母校』として盛り立てて行きたいものです。

かしわ会東京支部は、直接的協力の困難さはあるものの、各界・各層を超えた「絆」を深めると共に、「情報センター」の一つと思つて貰える場になりたいと思つております。

今年も総会・懇親会を、昨年と同じ会場 レストラン・ベニーレベニーレで行います。これからも参加者の増員を目指して努力していきますが、同窓生の皆さんの意見要望等を聞きながら、役員・実行委員が企画立案していきますので、皆さんの忌憚らない提案をお願いします。

今後とも、絶大なご協力が必要でございますので、宜しくお願い致します。

かしわ会東京支部の皆さん お元気ですか？

「2014 年度東京支部総会・懇親会」の開催にあたり、学校長、同志会会長、同志会札幌支部長より寄せられたメッセージを紹介します。

かしわ会東京支部総会・懇親会に向けて

北海道北見柏陽高等学校同窓会会長 舛川 誠

秋の北見を彩る菊の香りゆかしい時季を迎え、東京支部の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より、一方ならぬご高配を賜り、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

去る9月5日に開催されましたかしわ会総会に於きまして、第6代会長に選任されました28期卒業の舛川誠でございます。平成16年より10年間、第5代会長として指導力を発揮された山本忠司前会長の後任として、90余年の歴史と伝統を誇り、2万2千余名の会員を擁する母校の同志会会長に指名頂き、身の引き締まる思いでございます。

私たちの故郷北見は、合併により石北峠からオホーツク海まで連なること110km、海と山を抱き、豊富な資源、多様な産業を誇る都市となりました。そして私自身の青春時代のまちは原風景は『都市再生』の名のもとに大きくその姿を変えつつあります。大きなしだれ柳に覆われた小公園はリニールアルされ、庁舎跡地には北見日赤病院が竣工、間近、様々な施設が姿や場所を変え、まちの形が変わろうとしています。議論のあるところかもしれませんが、出来上がったものを是とし、そこに新しい息吹を吹き込むことが何より大切なのだと考えております。

同志会会長としての重責とともに、故郷北見に住む者としての責任もしっかり果たして参りたいと思っております。

かしわ会東京支部の今後益々の隆盛並びに会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

「水の如く生きる」

北海道北見柏陽高等学校校長 塩見裕史

本年度着任した塩見(第二十四期)です。どうぞよろしくお願いいたします。今年の夏も、柏陽生は「おー!!柏陽」と大きな声で祭りに部活に活躍しています。

百周年に向け、生徒が文武両道に励み、たくましく生きる力を身につけられる学校にすべく、日常の教育活動の充実を努めてまいります。近づくに來られましたら、いつでも授業見学は勿論のこと校長室でお休みください。お待ちしております。

さて、大河ドラマの「軍師(黒田)官兵衛」は四十四歳で息子の長政に家督を譲り、後に出家して「如水」と名乗ります。この号は老子の「上善は水の如し」から取ったとも言われ、上海とは最上の善であり、最も理想的な生き方のこと。続けて老子は「水はあらゆるものに恵みを与えながら争うことなく、誰もが嫌う低いところへ自然に流れて底におさまる。だから、人の道にかなっている」とあります。

一見、軟弱そうに見える水ですが、堅い金石も動かさず、しなやかで形にとらわれない生き方は、実は最も強い生き方だということです。「水の如く生きる」優れたリーダーの生き方を感じます。

さらに、官兵衛の盟友「竹中半兵衛」の戒名が「深龍水徹」であることを知りました。「深龍」とは、深く隠れている英雄。「水徹」は水の流れるに徹すること、官兵衛は「水徹」になぞらえて身を「如水」とすることで、半兵衛の恩義を忘れまいとしたのではないかと思っている昨今です。

「かしわ会東京支部の発展を祈ります」

かしわ会札幌支部支部長 川島泰晴

かしわ会東京支部総会が盛会に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

お伺いしますと貴支部会員のエリアは広範囲におよび、役員の方々のご苦労は如何ばかりかと察する次第です。どうか総会・懇親会では純粋であった高校時代の思い出に浸って欲しいものです。

さて私事ですが、14期卒業50周年を機に札幌で同期会を開催しましたところ、68名の参加を得ることができました。東京支部からも7名の参加があり、とても喜ばしく感じました。ひとえに支部の結束の賜物であると御礼申し上げます。

このことを通じて単位である同期の日頃の連携の大切さ、それを補佐する支部の役割の大きさを改めて考えさせられました。

世の中全体が順風満帆とはいきませんが、より絆を深められ、貴支部の益々のご発展をお祈り申し上げます。

今年の札幌支部総会・懇親会は下記の要領で開催予定しておりますので、当日札幌にお立ち寄りの方は、お気軽にご参加下さい。お待ちしております。

札幌支部総会

日時 平成26年10月24日(金) 18時
場所 センチュリーロイヤルホテル「白鳥の間」
会費 6,000円(他支部の方は、5,000円)
連絡先 事務局長 小中 真一
電話 (011) 663-1903

3期生 傘寿の同期会を母校創立90周年記念行事 に合わせて北見で行う

昨秋の母校90周年記念式典・祝賀会には、3期生は31名が参加し、そのうち東京・関西からは14名が参加しました。

式典の内容は充実していて立派で、さらに楽しかったのは在校生も式典の企画・運営に参加していたことです。会場でもロビーでも我々を暖かく礼儀正しく迎え、よく世話もして頂いたことは在校生と卒業生の一体感が実に心地よく、今でも老牛の反芻のように思い出します。

3期生は式典に合わせて、傘寿(80歳)と卒業60周年記念の同期会行事を4日間にわたって楽しみました。

足が挙がらない、耳がよく聞こえないの80歳の集団が東京―北見を往復し、行事を無事にこなし順調に旅を終えた顚末を以下に報告しましょう。

まず、東京―北見の往復については、安全のためにできるだけ同じ便に乗ろうと希望者をまとめました。バスに乗るときに膝の弱い人は手鞆を友達に持ってもらえば、手摺を握って段を上がるのに専心できる。後ろからお尻を押してくれと頼むことも友達なら遠慮はいらない。空港の時刻や搭乗口の変更の放送を聞き逃しても、隣に友達がいれば聞き直せる。開かれた方もそのまた隣に聞けばよい。トイレにも行きやすい。階段を降りるのに隣の友達に手を持ってもらうだけでも安心して転倒しなくなる。機内で下肢が痺れた、心臓や頭の様子がおかしいとなったら隣席の友達が大声を挙げてくれる。



北見柏陽高校3期生、傘寿の記念同期会 平成26年10月15日 柏陽高校創立90周年記念式典

こういう高校時代から迷惑をかけあった仲間となら家族も安心して送り出してくれる、と考えました。

同期の集まりは、式典・祝賀行事の前日に夕食を寿司屋の2階でとることから始まりました。お互い、まあまあ元気な姿に安堵し話は弾みました。

土曜日の式典のあとの祝賀会は「ホテル黒部」で盛会でした。その日の晩、3期生は「ピアソンホテル」で同期会を開きました。開会に先立ち、ここ数年の物故者に黙とうを捧げ80歳をしみじみと感ずる一時でもありました。

翌3日目、日曜日の朝に母校訪問。校長室で歴代の校長先生の

各期の近況①

3期生は、3年間を柏陽高校で過ごした最初の学年です。同年の創立90周年を北見で迎えました。スペシャル版でお届けします。

お写真にごあいさつし、教室を巡り、在校生の休日の音楽練習を聴き、廊下の生徒の描いた絵の散々を観賞。図書室を拝見、我々の高校時代との隔世の感に驚きを禁じ得ませんでした。

校庭に出て『柏陽陽心』の石碑の前で記念写真。柏陽の生徒なら、気持ちがぐらつきそうなときに思い浮かべる、80歳になっても気になる不思議な言葉です。我々が入学した時に『北見柏陽高等学校』という校名を当時の先生方がつけたのですが、その時すでにこの励ましの言葉を考えておられたのでしょうか。

地元の新聞社の取材を受けた後、大きなバスに乗り込んで観光の大きなバスに乗り込んで観光の旅に出発しました。

♪ハイランド小清水の空のひらけた高原でアイスクリームを楽しみました。美味しい。

♪川湯の硫黄山では噴火口の匂いを楽しみました。大地の懐かしい匂い。

♪摩周湖第一展望台では静かな湖面を楽しみました。恵まれた天候、静かな雰囲気。

♪弟子屈町の「レストラン摩周」では特産の3色そば、旨い。

♪美幌峠。雄大で、変わらずに清潔で、静かで素晴らしい。しかし寒い。北海道へ。

バスガイドは同期の千葉正義君。楽しいおしゃべり、蘊蓄のある語り口、感心しきり。

結構歩いたのに、途中休みも入っていて皆元気で夕方に温根湯温泉「大江本家」に到着。

出迎えてくれたおかみ的大江まち子さんは同期生。温泉に入り、その晩の宴会は座布団に座れない人は椅子を使い、幹事は旨い酒を用意してくれており、皆くつろいでゆったりとした時間を楽しみました。

翌4日目、月曜日の朝「山の水族館」で巨大なイトウを見ました。川の魚なのにこれほど大きくなれることに感動。自然には人の浅い常識を越えた仕組みがあるようです。北見郊外のゆったりした風景を楽しみながら北見市内に戻り、バスターミナルのあるバラボビル6階のレストラン「穂」で昼食を取りました。

臓の腑から手足の先まで、北見と柏陽と友達と親戚との交歓に充たされた数日間でした。その後、親戚の家に行く人、中学校の同期会に行く人、この日のうちに東京や札幌に帰る人、“次の米寿には会えたら会おう”と緩く、しかも少しは自信もありげに望みをつないでの散会となりました。

幹事 志鷹義明・泉 宏吉(文責)・平村次二・二上信英

街の中は変わりましたが・・・—北見市

最近北見も地球温暖化の影響を受け、真冬の最低気温も少しずつ上がってきたような気がします。自転車通学での冬道。常呂川の上を通り抜けると、睫毛も髪も霜が降りたように白く凍った高校時代を懐かしく思い出します。

4年前に20年住んだ関西から北見に帰りました。

市役所が大通り沿い（元東急百貨店の建物）に移転し、市役所跡には北見日本赤十字病院が建つことになっています。街の賑わいも以前より寂しくなったような気がします。50年前は茶色く濁って異臭が漂っていた常呂川は、異臭もなくなり校歌の歌詞にあるような「さやかに清し」の川にもどりました。東9丁目にあった吊り橋も永久橋への取り替え工事が進んでいます。



現在の北見駅

日本ハムファイターズが本拠地を札幌にしたこともあり、朝のTVニュースで日ハムだけの、前日の勝ち負けと近況報告もありその変貌に驚いています。

甲子園を目指した柏陽球児の夏は健闘もなく地区代表決定戦で終わってしまいましたが、この時期になると東稜公園場での全校応援が思い出されます。3年の時には応援団のリーダーとなり、

声の大きいという理由で校歌、壮行歌の担当の機会が多かったです。緊張感もりましたが終わった後の達成感が気持ち良かったことは今でも忘れられません。

団塊世代も60歳を超えて体力が大きく減少してきました。今、老化に対してもさやかな抵抗をし、スポーツジム通いと上手くならないゴルフと、ほんの少しの野菜作りを楽しんでいます。 (穴田照実)

楽しいイベントがいっぱいです—旧端野町

暑いあつ!! 今夏の端野でした。

これから台風の本番がやってきますが、例年よりさらに大型になると言われています。十分に気をつけてお暮らしてください。

現在の端野ですが、小・中学校が常呂川堤防の外側にありましたが、3年ほど前に中学校が端野駅から山の方へ

500m位の位置に移転しました。小学校も来年度には隣地に移る予定です。昔とくらべて役場庁舎・郵便局・警察の駐在所・消防署などの建物が移転してすっかり風景も変わってきています。



カレーライスマラソン

行事としては、8月第3に丁日に農業の町にちなんで『太陽まつり』があります。メインはウォーターロデオ。丸太にまたがり柔らかい棒で相手を水の中に叩き落とすゲームは、毎年大人気です。前夜祭として頭上に輝く打ち上げ花火が人々の目を奪います。生ビールや焼きなどが場を盛り上げ、大変にぎわいます。

9月には『カレーライスマラソン』があり、4人組で参加します。それぞれが玉ねぎ、ジャガイモなどカレーを作る材料を集めながら完走を目指します。ゴール後にはその食材でそれぞれのチームが美味しいカレーライスを作って食べるのが醍醐味。テレビで特集されたこともあり、今では全国的に有名になりました。今年は限定200チームのところ、387チームの応募があったようです。

まだまだイベントがあり紹介しきれません。どうぞ柏陽高校卒業生の皆様、端野に帰省した折にはいろんな所を探索し何かを発見してみてくださいませんか?お待ちしております。 (尾谷正人)

ふるさと便り

北見・訓子府・置戸・端野

置戸短信

●平成26年6月29日晴天、置戸夏祭りのメインである「人間ばんば大会」開催

今年も遠くは札幌、帯広からも参加があり、地元の子ども達や置戸高校生のレースも含めて69チームの参加で熱戦が繰り広げられた。決勝レースは500kgの丸太を積んだ鉄そりを5人で、山を二つ超えながら80メートルを走る過酷なレースである。地元秋田地区の「アキタホマレ」が、勝山地区の「カツヤマックス」を破り優勝賞金50万円を手にした。

●旧駅舎の後平成9年に完成したコミュニティホール「ぼっぼ」の今

旧国鉄池北線から第3セクターとして北見市、池田町間を運行していた「ふるさと銀河線」が、平成18年に廃線となり、網走本線開通から95年の歴史に終止符を打った。

駅舎一階は商工会、歯科医院、バスの待ち合い所や手作り雑貨や喫茶の店として利用されている。

二階の多目的ホールや壁面は東京銀座の画廊とある縁で、90枚近い絵で埋められ、少しずつであるが、置戸の「ぼっぼ絵画館」として知られるようになり2年が過ぎようとしている。

●花いっぱい大通り商店街

平成6年に町並み整備事業がスタートし、大通り商店街が一変して20年が過ぎた。シャッターの無い商店街として取り組んだのが、それぞれが3店の前に花を飾ることだった。平成16年には「北のまちづくり」で北海道知事賞を、続く17年には「全国花のまちづくりコンテスト」で優秀賞を受賞した。



人間ばんば大会

*置戸町は来年の平成27年に旧のつけ牛村、今の北見市から分村独立して100年となります。

昭和30年代に12000人を超えていた人口は今3200人を割りましたが、これからも変わらず「小さくても輝く自治体」を目指し、節目の年を迎えたいと思います。

(佐藤純一)

涙雨の中で最終列車を見送りましたー訓子府町

今年の訓子府は、6月に37度と全国で最も高い気温になり、その後も時々30度以上の真夏日になるなど少々うんざりした日々を送りましたが、お盆を過ぎると朝夕はめっきり涼しくなり秋の気配を感じるようになりました。

さて、わが町訓子府も私たちが少年時代を過ごした街並みは大きく様変わりし、平成13年に北海道などの支援を受けて電線類は地中へ、商店街は近代化へと整備され昭和の面影はすっかり姿を変えました。こうした中であって現在の商店街は加速する少子高齢化や北見の郊外に進出する大型スーパー等の影響に加え、後継者不足もあり閉店する商店が相次ぎました。今では当時を知る人も少なくなり淋しい限りです。

また、高校時代に通学で利用した池北線は、平成元年に旧国鉄から第三セクターの池北高原鉄道が経営を引き継ぎ、「ふるさと銀河線」として運行されました。旧国鉄から約100年続いた鉄路は平成18年4月20日を以って廃線となりました。最終列車が訓子府駅に到着し、北見へ向けて出発する頃には大粒の雨が涙雨となって見送る人たちを濡らしたものです。

定年も過ぎ、最近は同級生と飲むことが多くなりました。私たちが高校生だった昭和38年頃の通学列車はディーゼルカー、朝のラッシュ時は4~6両編成で北見藤女子高に通学する女子と我々男子生徒の乗る車両が暗黙のうちに分かっていたことが思い出されます。

通学列車で互いに好意を持ち、交際へと発展した友をうらやましげに見つめる視線、ズック靴が多かった中で真新しい革靴を履いていた友人の逸話など、集まるほどに時間を忘れ懐かしい話して盛り上がり、あそこへタイムスリップするのは年齢のせいでしょうか。いつまでも互いに健康でありたいと思う今日この頃です。

(小沢和也)



ふるさと銀河線 訓子府駅

各期の近況②

14 期生『同窓会』

14 期同窓会が、6 月 18 日（水）、札幌市 KKR ホテル札幌で開かれました。1 組 11 名、2 組 6 名、3 組 10 名、4 組 10 名、5 組 8 名、6 組 2 名、土木 9 名、電気 11 名総勢 67 名が参加してくれました。東京からは 6 名が参加しました。

私たち 14 期卒業生は昭和 39 年の卒業であり、今年で 50 年の年月が経過したことになります。また、70 歳代突入の前年にあたります。このタイミングで久しぶりに集まろうの提案が



あり開催の運びとなりました。

記念写真撮影の後、見野君の司会で同窓会が進み、主催者挨拶お川島君、物故者に黙祷。中島君の音頭で乾杯。その後、懇親会へと進みクラス単位で自己紹介、校歌斉唱、本条君の締め音頭で一連の流れは終わりました。

二次会には殆どの方が参加して久しぶりに元気を確認しあい同窓の絆を深めあっていました。これからは各支部、クラスで活動しましょうということになりました。（中島正信）

15 期生『修学旅行 甲斐路と世界遺産富士山を訪ねて』

第 1 日目（H26.5.18）

北風前日は前々日から冬に逆戻りしたような寒さ。同じ日、山梨では最高気温 30℃の夏日を記録したとのこと。私は朝一番、千歳空港へ向い、羽田からモノレール・山手線に乗継ぎ、新宿で幹事参加者達と落ち合うことができた。

京王線を利用し、高尾駅で JR 中央線に乗り換えるが、男性陣が急に走り出した。私も後をついて走る。後ろの女性数名はおしゃべりしながら悠然と階段を下りてくる。焦った事務局長は、閉まりかけたドアを必死で押さえながら彼女達が乗り込むのを待つ。間一髪、全員が乗車に成功。

山梨駅山駅で下車し、他のグループとドッキング。タクシー 3 台に分乗し、武田信玄の恵林寺で歴史と新緑の深みを味わった後、次の目的地のワイナリーへ。会長の丁寧な説明に耳を傾け特製の試飲、ここで出来上がった人もいるとか美味しいとか。

そして今夜の宿泊先。高台に建つフルーツパーク富士屋ホテルへ、鍋底のような台地が広がりその中にたたずむ家々、そしてその先には雪をいただき涼とそびえる富士山。目を見張る光景が広がっている。これが甲府盆地なのか！！

夜の大会では甲斐料理を満喫。修学旅行では初めての近況紹介、それぞれの人たちが苦楽を味わいながら卒業後 50 年を生きてきた。まだまだ先は長い、来年の再会を目標に明るく元気に過ごすことを約束し合った。

第 2 日目（H26.5.19）

大菩薩峠から登る朝日と真白に映える富士山にウットリしながら、のんびりとフルーツ公園などを散策した後、朝食を済ませ、観光バスで富士山へと向う。河口湖を経由して、残雪の多い富士山五合目にやって来たが、残念ながら、白い雲に覆われて、その姿を見ることができなかった。

中国語が飛び交うお土産屋さんで買い物済ませ、次の目的地忍野八海へと下っていく。二合目辺りまで来ると青空が広がり、鮮やかな新緑の森の中を進んで行く。ヘルシーな郷土料理の昼食後、富士山の湧水の池忍野八海巡りに出発する。約 1 時間の散策後、JR 大月駅に向い、15 時頃に本別荘となった。名残惜しいですが、来年も楽しみに、また会いましょう！（高橋律子）



編集後記

今年の夏は想定外の暑さと自然災害が続きました。みなさま、お変わりなくお過ごしでしょうか？会報「おー!! 柏陽 2014」をお届けします。今号では、ふるさとからの便り特集しました。ふるさとの今に思いを寄せていただければ嬉しいです。無理な注文に快く原稿を寄せていただきましたみなさま、ありがとうございます。心からお礼申し上げます。國武記